

会 報

◇史学会總會

六月五日(土)、C棟一〇二教室において、第十一回奈良大学史学会總會が行われた。一九九二年度の事業・決算・会計監査報告が行われ、次いで一九九三年度の役員人事案・事業計画案とそれに伴う予算案が提案され、それぞれ原案どおり承認された。

一九九三年度の役員は次のとおり。

▽会長 長 青木 芳夫

▽副会長 松山 宏

▽教員委員

(監査) 水野柳太郎、堀内 一徳

(編集) 鎌田 道隆

(庶務・会計) 守山 記生

(庶務・交換) 森田 憲司

▽学生委員

(代表) 京谷裕彰、(副代表) 松島逸彦、(渉外・交流)

上井谷修、(書記) 山口定則、(総務) 菅野谷俊英、(編

集) 田上晃、(広報) 塗師村友恵、柴田紀子、水野由規、原田憲治、本有健一郎、大多和功、吉田昇司、板垣里佳、北岸昭人、榊田一步、中村淳一、谷淳子、橋本香織、富野啓吾、佐藤晶子、上木輝康、小鹿朋子、青木慶久、井上理子、崎原盛俊、永井隆之、川本哲也、奥田雅也、万代恵

◇特別講義

六月五日(土)、史学会總會にひき続き、奈良大学史学
科・史学会共催の特別講義が行われた。講師・演題は次の
とおりである。

計量史家 篠原俊次氏

「歴史学と度量衡」

大阪大学教養部教授 谷口規矩雄氏

「明朝建国者・朱元璋の一生」

◇現地見学会

本年度の春期現地見学会では、六月二十日(日)に柳生にある様々な史跡をめぐるっていった。近鉄奈良駅に集合して、バスで柳生に到着後、柳生一族の墓のある芳徳寺や柳生陣屋跡・柳生藩家老屋敷などを見学した。

また、十一月二十八日(日)にも、秋期の見学会として
浄瑠璃寺・岩船寺を散策した。

両見学会とも昔からの環境が守られ、風景の中に歴史を
じかに感じることができ、貴重な体験を得ることができた。

◇定期講習会

史学科にふさわしい内容をもったビデオ（映画・ドキュ
メンタリー等）を上映し、それに関係する資料を集めて討
論会を行なった。本年度は、六月十二日（土）に『中国激
動の四〇年』を、十月十六日（土）に『戦艦ポチヨムキン
—ロシア革命前史—』をテーマに開催した。両回とも熱心
な参加者を迎えて好評であった。

◇卒論中間報告会

十一月六日（土）、十三日（土）の二週にわたって第十
回卒論中間報告会がC棟二〇三教室において行われた。多
数の学生が参加し、熱心に報告を聴いていた。また、質疑
応答も活発であった。

本年度の報告者と論題は次のとおりである。

○十一月六日

加納 塔子「漢の刑罰について—前漢の文帝の刑法改革
を中心に—」

夜久ひとみ「如意と林檎—清代北京の婚姻習俗にみる滿

族文化の考察—」

藤岡 匡子「大戦前夜の日米交渉」

小笹 由加「農書にみる『稼ぎ』の近世的展開」

○十一月十三日

澤井 正平「ノルマン征服におけるケンブリッジの所領
形成について」

永井 愛子「イギリスにおける封建王政の形成」

佐藤 秀行「豊太閤の姓名について」

古谷 智美「光明皇后論」

齋藤 崇「信州の分県移行問題について—明治二十年

代の分県・移行運動を中心に—」

◇「史学会会報」等の発行

史学会行事の案内など、史学会の活動の普及を目的とす
る「史学会会報」であるが、本年度は前・後期合わせて六
回発行した。また、例年にひきつづき一年次生を対象にし
た小冊子「歴史学への扉」及び「講読紹介」を発行し、よ
り充実した内容となった。

◇第六回史学科中国研修旅行

奈良大学文学部史学科では、昨年引き続き、第六回目
の中国研修旅行を、鎌田道隆・森田憲司の両教員の引率で、
次の日程で行なった。

三月 七日 大阪から北京へ。北京泊。

三月 八日 北京（故宮、天安門広場、皇史宬、中山公園、労働人民文化宮）から、蘭州へ。蘭州泊。

三月 九日 蘭州（甘肅省博物館、白雲觀、黄河）から、夜行列車で柳園へ。車中泊。

三月 十日 ほぼ一日車内、夕刻柳園に到着し、敦煌へ。敦煌泊。

三月 十一日 終日莫高窟見学。敦煌泊。

三月 十二日 敦煌（博物館など）から、蘭州（白塔公園）へ。蘭州泊。

三月 十三日 蘭州から北京（鼓樓など）へ。北京泊。

三月 十四日 北京（A班 万里の長城、首都博物館。B班 五塔寺、万寿寺、大鍾寺、白塔寺、古観象台、大柵欄）。北京泊。

三月 十五日 北京（頤和園、王府井、瑠璃廠、梨園劇場など）。北京泊。

三月 十六日 北京から上海（豫園）へ。上海泊。

三月 十七日 上海から大阪へ。

今回の旅行のハイライトは、敦煌であるが、蘭州から柳園までの二十七時間の火車の旅と、さらに二時間あまりのバ

スという、いささかハードなスケジュールの後にたどり着いた敦煌は、期待以上の感動を参加者に与えたようであった。

◇会員動向

○青木芳夫氏（西洋近現代史担当）は、今年度から国立民族学博物館の共同研究員（「ラテン・アメリカにおける文明像の学際的研究」）をつとめている。また、氏が会員でもあるラテン・アメリカ政経学会の第三十回全国大会が十一月六、七両日に奈良大学で開催された。

○明石岩雄氏（日本近代史担当）は、昨年四月から、奈良大学教員海外研修で、中国江西省南昌の江西大学に留学中であつたが、三月に帰国した。

○松山 宏氏（日本中世史担当）は、八月下旬にスペインを訪れた。オリンピックのあつたバルセロナ、内部の装飾と音響のすばらしいイスラムのアルハンブラ宮殿、古い居酒屋のあるセビリア、ゴヤ・ペラスケス・グレコの名画のあるマドリードのプラド美術館、奈良と姉妹都市で中世の景観を色濃く残すトレドなど、印象深い旅行であつた。

○森田憲司氏（東洋前近代史担当）は、資料収集と史蹟参観、第二回北京図書館見学のため、九月六日から十九日まで、中国の北京および天津に滞在した。

平成四年度史学科卒業生論文題目

〔日本史〕

光明皇后と写経所	井久保弥寿子	七・八世紀における皇位継承について	樋口 勇人
日本書紀編纂に関する一考察	大田 和宏	天平九年以降の藤原氏	平山 圭
七世紀の造籍・班田について	植木 正和	奈良時代の政治に関わる祥瑞及び災異	藤澤宜資子
道慈について	川本 純栄	律令制下の牧について	古田 直樹
和氣清麻呂について	森次 芳子	官稻混合について	堀 有希
— 広虫伝との関係における清麻呂伝成立過程の一考察 —	小柴 敬正	古代の銭貨流通について（八・九世紀に限定）	南畑 圭一
按察使について	小林 美幸	平城遷都について	山澤 倫世
行基について	駒場千津子	— 平城遷都の理由 —	渡辺 昌俊
光明皇后の政治姿勢について	坂元 義済	藤原仲麻呂について	坂森 大蔵
散位寮考	末廣 恭子	☆ ☆ ☆	
古代の赦について	清家 達男	畿内における細川政元内衆 赤沢朝経	甲斐 和幸
宮城十二門号について	高村 佳子	— 大和との関係を中心にして —	葛西 重直
不破内親王について	田中 淳	北奥における南北朝の争乱	
朝集使の起源について	橋谷田昌代	— 南朝方南部氏を中心として —	川村 毅
国司制の成立について	浜崎 由美	尋尊と応仁の乱	近藤 健
奈良時代の伊勢神宮	馬場 恵	蒙古襲来後の恩賞	
古代田制の一考察		— 九州の被配領者について —	近藤 浩子
		摂津国人池田氏の動向	

— 応仁の乱前後の充正を中心として —

中世女性の資産相続について

— 鎌倉時代を中心に —

室町中期の延暦寺と坂本

— 永享の山門騒乱を中心に —

鎌倉時代の陰陽道について

— 安倍氏の鎌倉進出 —

中世播磨における赤松氏の領国経営について

— 十四・五世紀の検断権を中心に —

キリシタン大名 高山右近の信仰観

— フロイス『日本史』を中心として —

鎌倉時代の東海道

美濃平定までの織田信長について

— 桶狭間の戦いから —

『御文』からみた蓮如の信仰観

室町時代の公家日記にみる年中行事について

— 「八朔」の行事を通じて —

悪党発生にみる在地の情勢

— 播磨国矢野庄を中心に —

中世における時刻制度の一考察

二条天皇と親政派について

平家没落の背景について

— 福原遷都と反平家勢力 —

南北朝前期における斯波氏の一考察

— 高経を中心に —

豊臣秀吉の朝鮮侵略について

— 出征以前の兩國対立の経過 —

戦国大名朝倉氏の領国支配の一考察

— 奉行制・郡司制を中心に —

応仁の乱における武家の動向

— 応仁元年までの畠山氏の動き —

『李花集』にみえる宗良親王像

卑賤視された天狗

— 中世貴族の末法思想と天狗観 —

源義仲とその側近達

☆ ☆ ☆

吉田松陰と松下村塾の歴史的意義について

近世後期における富山売薬業の組織と活動

近世大坂の発展と都市内交通

近世輪中農民の水防をめぐる団結と対立

浜地 祐土

藤原 喜一

星野美香子

松浦 博

宮越 姿

山瀬 律朗

山田 夕子

米田 武弘

渡部 嘉章

井内 宏匡

石川 昇二

岩脇 和世

大谷 直志

姫路藩における専売制度の特質について 柏原 元美
水戸藩における弘道館設立と藩士教育について

佐野 真

近世廃仏思想と明治維新

澤田 潤

小浜豪商の近世的展開

下中 隆浩

近世農業村落共同体と食文化

清水 康博

『百姓伝記』にみる近世東海地方の農業構造について

曾田 辰雄

近世中期以降の婚姻と離縁にみる庶民生活

高宮 康輔

戦国時代における筒井順慶の大和支配

武平 竜一

近世都市における汚水・尿尿について

田中 美穂

江戸時代の流行病と民間医療

富岡有希子

近世城下町の成立と展開について

中沢 和紀

—信州松代の場合—

『年々留』に見る銭屋五兵衛の家業経営

野村 優子

近世後期の農民指導者である宮負定雄の思想と活動について

東山 征樹

岡山藩における庶民の教育政策とその展開について

藤原 文夫

近世前半における室津の本陣

村瀬 琢也

近世中期の商業経営と家訓の成立 森 政則
兒島湾沿岸における近世後期の新田開発について

—興除新田を中心に—

森田 美和

近世後期民衆の服飾、髪結と取締り

山本 聡子

幕藩体制下における忠義

井田 和摩

—赤穂四十六士論を通じて—

☆ ☆ ☆

大政翼賛会におけるファシズムについて

逢坂 祐至

—軍が何故内政に干渉する事ができ、戦争へ導く事ができたのか—

昭和初期におけるラジオ体操の役割

足羽 幸宏

森有礼考

石丸 雄爾

宗教的建学精神が女子教育に果たした役割りについて

—相愛女学校の女子教育指導理念の変化を通じて—

金澤江伊子

奈良県中和地方における売業の展開

勘村 雅子

鹿鳴館における条約改正

京谷亜希子

明治期の電気通信について

木村 学

—電話交換事業の創始—

近代における唱歌と童謡運動について

佐々木直弥

—音楽教育の中の「子供」の位置—

関東大震災と民衆意識

志賀 昇

五斗米道について

日明貿易

阿座上謙二
井上 丈司

—思想コントロールの場として—

創始期の明治教育

保 晃樹

—明日間における勘合貿易について—

元代の駅伝制度について

大木 彰

—教員政策を中心に—

近代国家における華族制の必要性

徳井 直浩

—通政院の廃止に関する疑問について—

北京の八大胡同について

上別府由紀

—ヨーロッパ貴族との比較を含めて—

奈良県蚕糸業の特色

西川 栄司

韓非子の法治主義について

金朝の漢人統治政策

木村 憲明

天皇不在の東京裁判

平井 志津

—主に傀儡国家楚・斉を中心として—

黄巢の乱

阪上 久規
前田 竜一

日露戦争時における日本外交

福田 寿人

—唐末の反乱からみる乱の発展性—

唐代の西域経営

松平 啓

—要因である日米対立—

満州開拓と北海道農業

森下 朱理

—碎葉と四鎮—

唐代の皇帝と道教

松浪 保之

民間信仰にみる近代沖繩の民衆

渡邊 尚子

—唐の皇帝と不老不死の丹薬について—

元明時代の泉州におけるイスラム教徒

八原 啓

太平洋戦争下における日本の対南方占領政策

有村 隆二

唐後半期の財政について

渡辺 靖之

近代の大坂における淀川治水問題について

石神 徹

—劉晏の漕運と権塩を中心に—

—前期淀川改修と大阪築港を通して—

〔東洋史〕

抗日戦下における中国の農村社会

稲垣 貢

☆ ☆ ☆

大東亜戦争下の香港

清末の刑法改革について

明末清初の奴変に於ける一考察

清末の政治問題

—張之洞と彼の政策を中心に—

〔西洋史〕

キリスト教成立期の問題点について

—パウロ神学の真意—

古代北欧の民族と宗教

—北欧西部における宗教及び神々と祭祀—

初期イスラム世界について

—租税制度を中心に—

ローマ人の生活様式について

—社会と服飾を中心に—

古代エジプト宗教の成立と発展

—太陽信仰と王権—

ヘブライの宗教

—ノアの大洪水—

スペインのイスラーム文化について

古代エジプト対外史

小松 洋一

妹尾 真二

安野 晴美

山本 和美

安形 誠

伊藤 文雄

香川美由紀

喜多 孝二

末次 彩

曾我部浩一

高津 元栄

竹内 真弓

ケルト人を中心としたヨーロッパ諸地域に関する一考察

植田 美樹

原始キリスト教の形成

虫明 富美

—パウロの回心について—

パウロの伝道旅行

屋敷 彰

ケルト人社会の発展と衰退

山下 佳奈

—ガリアを中心に—

ルイ十四世の対外政策

山本 博美

—自然国境説をかかげて—

ピラミッドの発展とその背景

吉田 誉

ネロ帝の時代

原田 孝徳

☆ ☆ ☆

ナポレオンの帝政掌握期における政治的展開

小林 直人

中世ヨーロッパにおけるベスト大流行とその影響

辛島 敦子

ドイツ軍国主義とクルップ

高橋 千穂

グレゴリウス改革

大工紀代子

西欧中世修道院の展開

中村 知子

—その日常生活を中心に—

ビザンツ帝国の興亡

藤田 尚子

—皇帝権力の変遷と国制—

西欧中世における農村について

十字軍の変遷

—その諸外国に与えた影響について—

テューダー朝における毛織物工業

フランス絶対主義の盛衰

☆ ☆ ☆

スペイン人民戦線の成立から崩壊まで

アメリカ黒人奴隷の生活と解放

インカ社会の儀礼について

英国警察の歴史

—スコットランド・ヤードの誕生まで—

ドイツ女性史

—ヒトラー時代のユダヤ人女性—

一九二〇年代のソビエト農村について

アメリカ独立革命

—自治と革命権力の形成—

〔考古学〕

仏教伝播考

—蘇我氏を中心として—

古墳時代の馬具について

—鐘形杏葉に対する一考察—

西日本における古墳時代線刻画の研究

的の神事

—奈良県の事例をあげて—

白岩 修

田中 輝

野上奈緒美

稲継 諭

多田 聖磨

熊田 拓哉

下出谷映美

鈴木大二郎

副島 文博

高橋 都

萩原 政暦

宮田 博和

岡部 正克

受贈雑誌及び図書 (自一九九二年十一月
至一九九三年十一月)

雑誌

アカデミア (南山大学) 人文・社会科学編 第五七号

アジアアフリカ言語文化研究 (東京外国語大学アジアア

リカ言語文化研究所) 第四四、四五号

アジア研究所紀要 (亜細亜大学アジア研究所) 第一九号

アジアフォーラム (大阪経済法科大学アジア研究所)

第六、七号

愛知大学文学論叢 第一〇二輯

岩手史学研究 (岩手史学会) 第七六号

お茶の水史学 (お茶の水女子大学読史会) 第三六号

大阪経済法科大学アジア研究所年報 第四、五号

鹿大史学 (鹿児島大学史学地理学考古文化人類学教室)

第四〇号

海南史学 (高知海南史学会) 第三一号

漢学研究通訊 (漢学研究中心) 第一一卷第三、四期

キリスト教史学 (キリスト教史学会) 第四七集

吉備地方文化研究 (就実女子大学吉備地方文化研究所)

第五号

紀尾井史学 (上智大学大学院史学専攻院生会) 第一二号

京都市歴史資料館紀要 第一〇号

京都橘女子大学研究紀要 第一九号

熊本史学 (熊本史学会) 第六七・八号

皇学館史学 (皇学館大学史学会) 第七・八号

神戸大学史学年報 (神戸大学史学研究会) 第八号

斎宮歴史博物館研究紀要 第二号

史苑 (立教大学史学会) 第五三卷第二号

史学 (三田史学会) 第六二卷第一・二、四号、第六三卷

第一・二号

史観 (早稲田大学史学会) 第一二八、一二九冊

史聚 (史聚会) 第二七号

史泉 (関西大学史学・地理学会) 第七六、七七号

史艸 (日本女子大学史学研究会) 第三三号

史窓 (京都女子大学史学会) 第五〇号

史叢 (日本大学史学会) 第四九、五〇号

四天王寺国際仏教大学紀要 (短期大学部) 第三三三号

四天王寺国際仏教大学紀要 (文学部) 第二五号

資料館紀要 (京都府立総合資料館) 第二一号

秋大史学 (秋田大学史学会) 第三九号

就実女子大学史学論叢 第七号

上智史学（上智大学史学会） 第三七号

信大史学（信大史学会） 第一七号

神女大史学（神戸女子大史学会） 第一〇号

人文学報（東京都立大学人文学部） 第二三八号

人文論集（静岡大学人文学部社会科学科・言語文化化学科研究

報告） 第四四—一号

スペイン史研究（スペイン史学会） 第八号

住友史料館報 第二四号

西洋史学報（広島大学西洋史学研究会） 第二〇号

西洋史論叢（早稲田大学西洋史研究会） 第一四号

聖心女子大学論叢 第八〇、八一号

専修史学（専修大学歴史学会） 第二五号

双文（群馬県立文書館） 第一〇号

綜合郷土研究所紀要 第三八号

創価大学人文論集 第五号

高石市史紀要（高石市役所） 第一、二号

高石町郷土史研究紀要（高石町教育委員会） 第二、四—

一〇号

高円史学（高円史学会） 第九号

千葉史学（千葉歴史学会） 第二一、二二号

地域研究いたみ（伊丹市立博物館） 第二一、二二号

近松研究所紀要（園田女子大学近松研究所） 第四号

中央史学（中央史学会） 第一六号

中国水利史研究（中国水利史研究会） 第二二二号

津田塾大学国際関係研究所報 第二七号

土浦市立博物館紀要 第四号

教賀論叢（教賀女子短期大学） 第七号

帝京国際文化（帝京大学文学部国際文化学科） 第五、六号

帝京史学（帝京大学文学部史学科） 第七、八号

帝京大学山梨文化財研究所研究報告 第四集

富山市日本海文化研究所紀要 第六号

富山市日本海文化研究所報 第一一号

東海史学（東海大学史学会） 第二七号

東北学院大学東北文化研究所紀要 第二五号

東洋大学文学部紀要 第四六集 史学科篇一八

東洋文化化学科年報（追手門学院大学文学部東洋文化学科）

第七号

徳川林政史研究所研究紀要（徳川黎明会） 第二六号

栃木史学（国学院大学栃木短期大学史学会） 第七号

奈良県立民俗博物館研究紀要 第一三〇号

奈良歴史通信(奈良歴史研究会) 第三八〇号

寧楽史苑(奈良女子大学史学会) 第三八〇号

二松(二松学舎大学大学院文学研究科) 第七号

二松学舎大学東洋学研究所集刊 第二三集

二松学舎大学論集 第三六号

日本研究(国際日本文化研究センター) 第七、八集

日本思想史研究(東北大学文学部日本思想史研究室)

第二五号

日本仏教史学(日本仏教史学会) 第二六号

日本文化史研究(帝塚山短期大学日本文化史学会)

第一八号

日本モンゴル学会紀要 第二二、二三号

新潟史学(新潟史学会) 第二九、三〇号

年報中世史研究(中世史研究会) 第一八号

年報日本史叢(筑波大学歴史・人類学系) 一九九二

白山史学(白山史学会) 第二九号

花園史学(花園大学史学会) 第一三三号

弘前大学国史研究(弘前大学国史研究会) 第九三、九四号

広島大学東洋史研究室報告(広島大学文学部東洋史談話会)

第一四号

ふびと(三重大学歴史研究会) 第四五号

兵庫県の歴史(兵庫県史編集専門委員会) 第二九号

兵庫教育大学研究紀要 第一三卷第一—三分冊

富士論叢(富士短期大学学術研究会) 第三七卷第二号

福岡教育大学紀要 第四二号 第二分冊 社会科編

福岡市博物館研究 第二号

福岡市博物館研究紀要 第三号

福岡市博物館年報 創刊号

法政史学(法政大学史学会) 第四五号

法政史論(法政大学大学院日本史学会) 第一九、二〇号

北大史論(北大史学会) 第三三三号

三井文庫論叢 第二六号

御影史学論集(御影史学研究会) 第一八号

民具マンスリー(神奈川大学日本常民文化研究所)

第二五卷第六—一二号、第二六卷一—五号

明代史研究(明代史研究会) 第二二号

モンゴル研究(モンゴル研究会) 第一四号

山形史学研究(山形史学研究会) 第二六号

鷹陵史学(佛教大学史学科研究室) 第一八号

横浜市立大学論叢 第四三巻第一号

横浜商大論集（横浜商科大学学術研究会） 第二六巻第一、

二号

米沢史学（米沢史学会） 第七号

立教大学大学院文学研究科史学専攻東洋史学論集 創刊号

歴史（東北史学会） 第八〇、八一輯

歴史学論集（山梨大学教育学部史学教室） 第三二集

歴史研究（大阪府立大学） 第三一号

歴史人類（筑波大学歴史・人類学系） 第二一号

歴史と地理（山川出版社） 第四四六―五七号

図書

アジア・太平洋地域における社会経済開発政策と国際関係

（学習院大学東洋文化研究所調査研究報告三二）

アジア太平洋地域の経済・政治の変貌（学習院大学東洋文

化研究所調査研究報告三八）

アジアの中等教育―その歴史と現状―（学習院大学東洋文

化研究所調査研究報告四〇）

渥美半島の文化史（愛知大学総合郷土研究所研究叢書Ⅷ）

伊丹酒造家史料（伊丹資料叢書八、伊丹市立博物館）

運搬具―背負う・提げる・載せる・曳く（神奈川大学日本

常民文化研究所調査報告第一六集）

漁民の活動とその習俗Ⅰ（神奈川大学日本常民文化研究所

調査報告第一七集）

群馬県行政文書件名目録 第六集 明治期宗教編Ⅱ（群馬

県立文書館）

群馬県立文書館収蔵文書目録 11 多野郡鬼石町飯塚家文

書一（群馬県立文書館）

収蔵品目録七 平成元年度収蔵（福岡市博物館）

収蔵品目録八 平成二年度収蔵（福岡市博物館）

常設展示案内（福岡市博物館）

戦後における日韓政治文化摩擦の比較研究（学習院大学東

洋文化研究所調査研究報告三四）

第三回「考古学と中世史研究」シンポジウム 村の墓・都

市の墓資料集 帝京大学山梨文化財研究所

第四回「考古学と中世史研究」シンポジウム 中世資料論

の現在と課題資料集 帝京大学山梨文化財研究所

中国における科学・技術教育の現状（学習院大学東洋文化

研究所調査研究報告三六）

東北の地域史と民衆（山形県立米沢女子短期大学共同研究

報告書）